

令和4年2月24日 ロシアがウクライナへ軍事侵攻！ 市民標的の戦争犯罪はゆるせない！

令和4年4月22日前橋テルサホールで、ウクライナ出身のビラ・オリガさんとパートナーのアコロバットパフォーマンス公演に参加しました。オリガさんは10年前から日本でアコロバットパフォーマー公演している。しかし今、首都キーエフで暮す母「日本に避難して来て」と頼んだが、「弟が軍に招集され、親族を守るために離れない」とのこと。もし私が現地にいたら憎悪で戦争に志願しただろう。オリガさんは、悩んで公演には前向きになれなかった。しかし日本において何ができるか、「ウクライナを知つてもらう良い機会になれば、祖国への助けになる」と思い決心して出演した。

「ウクライナは昔、きれいなドニプロ川のほとりにキィ兄妹4人によって作られた街です。黒土を生かし農業を中心に発展した、とてもきれいな広い国です」誇らしげに話されるオリガさんの心境を思うと深い深い悲しみが伝わってきました。「日本の皆さま本当にありがとうございます」と深々と頭を下げてあいさつをして公演終了になりました。私たちは一日も早く戦争が終わることを祈り、ウクライナの人たちのために支援をしていきたいと思います。

記：理事長久保田光明



「独立ウクライナの旗」は、ソ連邦時代からウクライナ独立のシンボルとして使われた。青は空を、黄は大地を染める小麦と農業を表す。

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）より

2月24日にウクライナでロシアの軍事侵攻が始まってから国境を越えて避難を余儀なくされた人は450万人を超え、ウクライナ国内でも700万人以上が家を追われています。まさに今、第二次世界大戦以降、最も急速に拡大している難民危機が起こっているのです。世界各地では8,000万を超える人々が紛争や迫害により故郷を追われています。アフガニスタン、ミャンマー、シリア、コンゴ民主共和国、ベネズエラ・・・。今大切なことは、“社会全体での支援” “誰一人取り残さない支援”的実現が「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成のカギとなります。UNHCRは、現場にとどまり活動を続けます。ご支援お願いいたします。

※この記事・写真はUNHCRのHPより掲載しました。



生後3ヶ月と3歳の子どもを連れてハンガリーに逃れてきた母親。

夫はウクライナに残ったままだという。

現場では脆弱な立場にある人々への人道支援の強化が急務だ！

© UNHCR/Zsolt Balla
2022年3月11日

ロシア・ウクライナ侵攻から学ぶこと！

- ① 戦争とは、国が他国に対し、自己の政治目的を達するために、経済、思想、軍隊や武力を行使し、互いの国民を殺し合い、すべて破壊する争い。
- ② 日本国も77年前までの戦争で、多くの尊い命が犠牲となりました。そして今、平和憲法の三原則、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」を掲げ、決して戦争しない平和の国になれたのです。
- ③ 私たちは、平和の大切さを深く噛みしめ、一日も早い終戦を祈り、ウクライナの人々のため最大の平和支援をしていく時ではないでしょうか。



5月17日 群馬県ウクライナ難民支援事業へ寄付金をお届けしました

群馬県山本一太知事が3月8日、ウクライナ避難民支援事業を立ち上げたことに、NPOピースサポート協会は、その趣旨に賛同し「寄付金50万円」をお届けしました。ウクライナの避難者は約1000万人と増え続けています。現在日本への避難者979人、私たちは、支援者の皆さまと共に「一日も早い終戦」を祈り、ウクライナの人々が幸せな生活ができるよう「ウクライナ難民支援活動」を力強く推進してまいります。



群馬県知事戦略部長 田子昌之氏と

SDGsとは世界を変えるための17の目標！

SDGs（エスディージーズ）とは、「持続可能な開発目標」。「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題の課題を、世界のみんなで2030年までに解決していく」という計画・目標のことです。2015年9月国連総会で193カ国が採択しました。日本は2019年5月「SDGs推進本部」を設置し、国内の企業・団体や自治体の取り組みを推進しています。



世界中でSDGsの取り組みが広がっています。
家の中でのSDGsの取り組み！

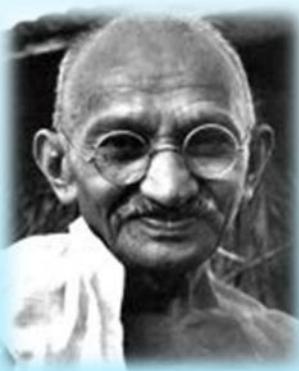
- ・電気やガスの節約・食べ物は残さず食べる
- ・エアコンの設定温度を下げ・上げ過ぎない
- ・紙やプラスチック、アルミなどリサイクルする
- ・電化製品は省エネ型を選ぶ
- ・コピー書類や請求書などの紙の使用を減らす
- ・自転車で移動する。バスや電車の交通機関を使う
- ・マイボトル・マイバッグを使うなど



地球が誕生して46億年、人類が誕生したのが700万年前、文明が栄えるのが2000年ほど前でした。そして今からたった100年ほど前から、人類は地球のエネルギーを消費して、文明の進化と開発のために化石燃料による二酸化炭素を排出し、地球温暖化が急速に進み、自然環境が破壊され、生態系は崩壊し、あと8年で地球は大絶滅へのはじまりにいるといわれています。

母なる地球を大切にまもりましょう！

21世紀人類への教訓「非暴力」は 人間に与えられた 最大の武器である！



マハトマ・ガンジー
1869-1948

「21世紀 の人類への 教訓」

ガンジー翁はインド独立の父、インドで宗教の違いを超えた「民族自決の精神」を培い、イギリスへの経済的依存からインドを脱却させ、国民を救うために生涯を尽くした。投獄と釈放を繰り返し受け、財産は身にまとった一枚の布と杖だけになってしまっても非暴力運動の指導を継続し、断食という手段で身をもって民衆の感情の過熱を制しようとする、超人的な努力と自己犠牲を払った偉人でした。

ガンジーの名言・「七つの社会的大罪」

- 1 原則亡き政治
- 2 道徳亡き商業
- 3 労働亡き富
- 4 人格亡き学識
- 5 人間性亡き科学
- 6 良心亡き快楽
- 7 献身亡き信仰

非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ
束縛があるからこそ 私は飛べるのだ 悲しみがあるからこそ 高く舞い上がるのだ
逆境があるからこそ 私は走れるのだ 涙があるからこそ 私は前に進めるのだ

21世紀に生きる私たちは、この教訓を噛みしめて、家庭・社会・国家・世界の平和に向けて歩んでいきたいと思います。

令和4年3月11日 東日本大震災から11年：被災地を訪ねました。 忘れないで東北！



今も3万8000人が避難
2011年3月11日大震災から11年、災害関連死を含めてこれまでの死者は1万9747人、行方不明者は2556人、全壊した住家被害は12万2005棟。22年2月現在、今も3万8139人が避難生活をしている。

福島原発の廃炉作業
福島第1原発事故による放射線物質の放出・拡散により、原発周辺の6町村の一部が現在も避難指示区域（帰還困難地域）に指定されている。同原発で廃炉作業が続いている。増え続ける「処理水」を薄めて23年春に海洋放出する計画を承認。国内外から懸念が示されている。

政府は、各町村の帰還困難地域のうち優先的に除染が進められている「特定復興再生拠点区域（復興拠点）」で、2022年春から順次避難指示の解除を行う方針。大熊町や浪江町では立ち入り規制が緩和され、住民が自宅で対泊まりできる「準備宿泊」も始まった。しかし帰還を望む住民は、極めてわずかな数にとどまっている実情。

令和4年3月12日、石巻市雄勝町を訪ねました。

ワカメ支援のご協力ありがとうございます！

大震災より11年が過ぎ、道路も岸壁も整備され、時の流れを感じます。高くそびえ立つ防潮堤、海の様子も見えず自慢の風景もさえぎられ、とても残念です。

震災後に復興したワカメの養殖は、ピースサポートの皆さんにご協力いただき、お陰さまで元気に生活しております。長い間のご支援に感謝の気持ちで一杯です。コロナ禍で大変な時期ですが、これからも宜しくお願ひいたします。

雄勝町漁師の横江さん。



令和4年3月11日、東松島市「あおい地区団地」を訪ねました。

自治会長小野竹一さん(74)11年前の大震災、東松島は1100人の市民が命を落とした。小野さんは自宅が流され家族は難を逃れたが、生き残った人も住むところがない。みんなで行政と相談し新しい日本一の古里をつくろうと、数百回にわたる「町づくりの話し合い」を開催し、580世帯の「あおい地区団地」が完成しました。

その後、一人暮らしの見守り隊など、みんなで支え合う住みよい町づくりを推進しています。

小野さんは「ここに住む人が日本一と思ってくれたら幸せです」と話されました。11年前すべてを失った方々が、力強く助け合って生き抜いている姿に、大きな勇気をいただきました。



川上由夫さん(82)を訪ねました。11年前の3.11、娘が孫と一緒に私たち夫婦を避難させようと迎えに来た避難中、津波にのまれ妻と娘と孫二人を失った。なぜ自分だけが！と生きる力を失った時、住職から「あなたが死んだらだれが供養するの」と励まされ、支えて頂いた事に感謝を込めてボランティア活動コンサートを毎年開いてきた。川上さんは「心に咲いた花は枯れない」多くの人に感謝で伝えていきたい。と生きる力を教えてくださいました。



R4.5.11 群馬パース大学「地域ボランティア活動論」の学習開催。
6年目の今年の授業、コロナ禍の中でも218名の学生が「地域ボランティア」について学習しました。ボランティアとは、社会のために喜んで活動する。それには、まず自らの行動を正し、人ために尽くせる人間になること、そして感謝の心で平和活動を推進する大切さを学びました。（久保田洋）



ワカメを食べて復興支援にご協力を！

ワカメの代金は被災地の漁師さんに直接振り込まれ生活支援になります。

ウクライナ難民支援にご協力お願いします！

皆さまからの支援金は、ウクライナ難民の方々のために使われます。

NPO活動の事業報告・活動計算書はHPをご覧下さい。



世界中の幸せは一人の人の心から

NPO ピースサポート協会

事務所 〒379-2143 群馬県前橋市新堀町190番地1

TEL/Fax (027) 265-2277 携帯 090-1113-9200

E-mail info@peace-sa.com <http://peace-sa.com>